たくさんのメディアにも取り上げていただいております。

Media 05

フィッシュオブレジェンド「アカバナ」養殖成功!!

●水産経済新聞 2014年3月20日「養殖新大陸」連載第6回

The Daily 2014.3.20.thu

Sui-Kei 日刊水産経済新聞

http://www.suikei.co.jp

小浜水産・アプロジャパン フィッシュオブレジェンド「アカバナ」養殖成功!!

「養殖新大陸」～未踏の新たなフロンティアを目指して～ 連載第6回

4～5月ごろめどに初出荷へ～養殖PJ本格始動

フィッシュオブレジェンド（伝説の魚）、幻の魚として知られる高級魚「アカバナ」―。鹿児島県・枕崎市の有力養殖業者・小浜水産では、昨年から安定生産への取り組みに着手し、4～5月から本格出荷を開始する。アカバナは、天然物ならば1キロを超えることもある大型魚、クロマグロに次ぐ大型の高級養殖魚として、新たな収益源の柱に据え、（大阪支局長・中村貴之）

遭遇したものに特別な感情 抱かせる、赤紫色の巨大魚

マグロと見紛うほどの大きな体（全長2メートル）と、赤ロウソクの色、カンパチとは別物の、赤紫色の美しい魚体。「幻の魚」と呼ばれるこの魚、それがアカバナだ。

九州地方などで、獲れたまに体長1メートルを超えるアカバナが、まとまって水揚げされることがあるが、まぼろしの魚。漁獲されたものの多くは、ほとんどが流通ルートに乗らず、地元で食べられるだけ。それが「アカバナ」だ。

マグロと見紛うほどの大きな体（全長2メートル）と、赤ロウソクの色、カンパチとは別物の、赤紫色の美しい魚体。「幻の魚」と呼ばれるこの魚、それがアカバナだ。

九州地方などで、獲れたまに体長1メートルを超える「アカバナ」が、まとまって水揚げされることがあるが、まぼろしの魚。漁獲されたものの多くは、ほとんどが流通ルートに乗らず、地元で食べられるだけ。それが「アカバナ」だ。

九州地方などで、獲れたまに体長1メートルを超える「アカバナ」が、まとまって水揚げされることがあるが、まぼろしの魚。漁獲されたものの多くは、ほとんどが流通ルートに乗らず、地元で食べられるだけ。それが「アカバナ」だ。

フィッシュオブレジェンド（伝説の魚）、幻の魚として知られる高級魚「アカバナ」―。鹿児島県・枕崎市の有力養殖業者・小浜水産では、昨年から安定生産への取り組みに着手し、4～5月から本格出荷を開始する。アカバナは、天然物ならば1キロを超えることもある大型魚、クロマグロに次ぐ大型の高級養殖魚として、新たな収益源の柱に据え、（大阪支局長・中村貴之）

新養殖魚「アカバナ」、生産に着手―小浜水産

九州の養殖業者には、大型魚種の陸上、ネット式の海面イケスを活用した、養殖魚のブランド化、付加価値の高い養殖魚の生産に乗り出す動きが出始めている。

その一つが、鹿児島県・錦江湾の有力養殖業者、小浜水産（小浜秀樹社長）。アプロジャパン（大阪、白石憲彦社長）の協力を得て、アカバナ養殖の事業化プロジェクトを立ち上げ、本格的な商品化を目指している。

小浜水産は、従来のブリ、カンパチ、マダイ、トラフグ、ヒラメ、シマアジ、カンパチ、ヒラメ、マダイ、トラフグ、シマアジ、ヒラメ、カンパチ